

浮屠生者三現
公夕兀獨逸國民性

大正七年二月

錄其情報局

序

歐洲大戰亂、精神上及物質上ニ於テ偉大ノ教訓ヲ吾人ニ與ラシメ、我
國青島ノ堅固ヲ拔キ獨逸國ノ俘虜ヲ收容シテ以來、將ニ四日生
霜ナラシメテ收容所諸官且其眷之ニ接シテ其民性及特質ヲ研究
シ其結果ヲ蒐録シテ以テ一冊子ヲ成ス短日月ノ觀察示固ヨリ其邊
徼ヲ期スヘカラスト雖又以テ全豹ノ一斑ヲ窺フニ足ランカ若シ夫之ニ
類テ我軍隊及國民ノ教育資料ヲ得ハ何ノ幸カ之ニ過キ

大正七年二月

結 言

本邦ニ收容スル獨逸浮屠ノ數ハ僅ニ四千三百四十有餘^過マシ此
 數者資料トシテ獨逸國民性ヲ云フスル如キハ聊カ無謀^感ナキ
 ニ非スト雖モ亦ニ獨逸ニテ大聯邦中ノ各邦ノ若浮屠中ニ獨
 羅セラシ其職業ノ如キモ殆其種類ヲ盡シテ餘^所ナシ且夫三
 年有餘ノ長時日彼等ト起居ヲ俱^セセシ我收容所所受^ニ成テ
 彼等ノ衣食住ノ一般狀況ハ勿論其他各箇人ノ行住坐臥一縷^テ
 一投足悉ク其視聽ニ映セラルシ從テ其觀察^ハ正鵠^ヲ失
 ヤサルヘキヲ信ス唯細部ノ事項ニ關シテハ各人相互ニ觀察ヲ
 異スルモノアリ恰モ廬山ノ真面目ヲ識リ得サル如キ所ナキニアラ
 ガルヘキモ之ヲ以テ單ニ擔板漢的觀察ノミト謂ハンヤ故ニ各
 收容所ノ觀察ハ奴力^テ之ヲ省略スルコトナク其載^スルコトセリ

第一章 獨逸人の特性

第一頁負心強ク執拗ニシテ傲慢

獨逸人の頗る自負心強ク傲慢ニシテ執拗ナリ吾人の常ニ謙讓ヲ以テ美德トシ幼時ヨリ「實事求是」と頭クマがる稍穩かな主義ノ下ニ訓育セラレ亦常ニ此主義修養ニ努ムルニ反シ彼等ハ偏ニ頭ヲ高ク保テ肩身ヲ廣クセヨク以テ箴言トナス故ニ邦人の眼ニ映ル彼等ノ言動ハ安ん無遠慮厚顏ニシテ頗る威威ニ想ハルモアリ一方又彼等ハ頗る執拗ニシテ其一度企圖シ或ハ希冀マセシ事項ハ其是非ヲ問ハス之カ貫徹ヲ期シ存慮ニシテ其一事ヲ願出テ許可セラレザルモ決シテ断念スルコトナク時ヲ與ヒテ處ニ由共ニ他ノ所員ニ哀願スルコト散固反フ又彼等ノ中ニハ未タ世界ヲ統一シテ他國ノ人ヲ眼下ニ見ントスノ風アリ若シ試存慮ニ付各國ノ民性ヲ問ハニ日ク英國國民ハ俄ノ如クロク大ニシテ多ク去フモ實行之ニ伴ハス露國ノ人ハウオッカ中ニ去リ佛蘭西人ハ滅ビテ瀕セル國民ナリ其

他國ノ人ハ何支那人ハ何ト他國ノ人ノ短所乃至其國ノ政策ニ擧テ來テ之カ缺點ヲ指摘シテ餘ス所ナク加之他ノ長所モ亦併セテ之ヲ批難シ獨逸ハ尙其以上ナク又獨逸ニハ之ニ代フルニ斯ノ如クセリト稱シ他國ノ民ニ對シテ一步ヲ讓ラザラントコト期ス故ニ吾人ノ直覺的觀察ニ依リテ傲慢不遜ニ我獨角のニシテ執拗ニ且ツ排他的ト認ムヘシ故ト云々ニ於テ善意ニ解セハ頗る進歩的徹底主義的精神ニ富ミ忍耐力ニ富ム優秀ナル國民ト言ハサルヘカラス

例 詰

一 飲酒セハ直ニ予ハ獨逸人ナリ高言ヲ吐キ其意天上天下獨逸人ノ措也
二人ナク世界中最強最優秀ノ人種ナリト自任スルモノニ似タリ(吾野原)
二 我若舟ヲ運日十四里ノ連續行軍ニ耐フルモ獨逸ハ如何トノ間ニ對シハ日十四里ハ獨逸トシテ普通ノ行軍ナリト其家語ニ又日本軍ハ食ニ一割ノ握飯一個梅干ヲ取りテ尚且ツ能ク長日月戰闘ニ堪ヘ獨逸軍果シ

テ如何ト問ヘハ彼牙然トシ獨軍亦一塊ノハシラ食トシテ如何ナハ戰闘行
軍ニモ必ス之ニ堪フト答フ一日倭虜ニ率ハ効外ニ散步シ山中ニ於テ道ヲ
失シ矮樹荆棘ノ密林中ヲ踏破スル約ニ時間ニ及ヒ爲ニ彼等ニ被服ハ
裂ケ顔面ヲ指ニ血痕ヲ見ルモノ多クカリニ拘ハラヌ又ノ苦痛ヲ訴フ者
ナク却テ快哉ヲ叫ヘリ又某日山中ノ行軍約ハ果ニ及ヒ時平赤行軍
ノ練習ヲ遠カシル彼等ハ頗ル疲勞ノ色アリ因テ隔フニ疲勞ヲ覺ル
ヤ否ヤヲ以テス布カモ異口同音ニシラ否定シモリ中ニ足痛ニ悩ム者ア
リシト雖然天ノ落伍者ナリ歸所セリ(大分)

三收管當初(倭虜)非ヲ犯シ軍營倉ニ銅セシ人食事ニ方リ衛兵彼ニ
與テハ「バント」茶トヲ以テス彼其茶ニ臭氣ナリテ飲ム難キノ故ヲ以テ水ニ請
求ヤリ然トモ言語通セハ爲メ依然毎食茶ヲ與ヘタルニ彼憤怒シテ三
日間遂ニ之ヲ一滴モ口ニモ入レ所員ノ巡視ニ際シ火ニ之ヲ訴フ乃チ水
ヲ與フルニ彼欣喜牛飲ス(大分)

四我軍軍中再事事項ヲ願出テ下スルニ際シ當然却下セラルルヲ知リシヨリ猶
萬ノノ僥倖ニシテ或ハ甲ヲ以テ請願シテ尚時ト處トヲ尋ヘテ表シ内ニ
轉々成ニシテ一度企圖セル事頃ハ其是非當不當ヲ問ハス銳意ニ之カ
實徹ニ察ムル概ニ如此(習志野)

五、倭虜ヲ軍營倉ニ處スヤ其戰反ハ人監督將校ヲ許シモ布ヲ持卷シ
テ許ハテテヨリ願ハクハ此モ布ヲ入倉者ニ給ヤラシヨト依テ軍營倉ニ處分者
ハモ布ヲ使用スルヲ得ズ汝亦能ク之ヲ知悉シアルヘント反問セリ彼抗言
シテ曰ク「我獨逸人此寒氣ニモ布ナクニテ夜ヲ明ス如キ人種ニテ下
依テ大ニ彼ニ比責セルモ彼猶自己ノ非ヲ認メス抗爭ヤルヲ以テ終ニ軍
營倉三十日ニ處セラハニ百五リ(名古屋)

第三組織的ニシテ勤勉實業員

彼等强健ナル体カニ加フルニ前述べ執拗心ヲ以テスルニナラズ元來組織的頭腦
ヲ有シ獨創的精神ニ當ル彼等ノ事業ヲ畫スルヤ先以組織ノ理及經驗ヲ

其トシ綿密周到ナル準備ヲマシスルニ非カハ者キセス而シテ一旦著手スルヤ勤勉ト勤著カトラ以テカ行奮闘ニ止マズ此特實ハ國民共有ノ美質ニシテ近代ニ於ケル獨逸帝國ノ勳輿亦此ヲ賜テリ彼等事物ノ輕重難易ニ關スルニ此特性ヲ以テ之監督ハ又無爲ニ時日ヲ徒消スルハ社會對テ不徳ナリトシテ大ニ角ニシテ所謂鶏ヲ割クニ牛カキ用エルモ辭セマユハ全精力ヲ其事業ニ集注ス又彼等ノ作業時間ノ長短ヲ論セスシテ寧ろ勤勉濃度大ナランヲ欲シ又一度仕事重キヤ幾回失敗スルモ決シテ挫折セズ失敗毎ニ却テ益其努力ヲ倍サテ初志ヲ貫徹シ得ハ始メテ止ム彼等ハ又万事未成ハ儘放置スルヲ屑トセス及テ限リテ氣ニテ成就セントス是レ莫ニ他事業ニ從事シ得シカ爲ニシテ換言スレハ更ニ進テ活動セカ爲常ニ之カ餘裕ヲ蓄ヘシト欲スニ外ナラザルナリ

以上述ヘタル如ク彼等特性トシテ事業ヲ企圖セヤ其計畫頗ル緻密ニ且其実行ハ爲メ頗ル熱心勤勉ナリ成果ヲ收ムル元キリ當然ノ歸結

ト謂ハルカラス尚之ニ加フルニ彼等ハ元來實業家ナリ文明人カ勤モスル輩ヲ好ミ輕佻浮薄ニ陥ルニ反シ寧ろ實利主義ニシテ華ヲ去リ實ヲ就クヲ以テ信條ト爲ス例ハハ彼等ノ自常所持スル軍裝品時計被服類如キヲ見ルニ外觀形状等ハ敢テ意トスルニナク唯堅牢ニシテ實用ナルモノニ變ス就中彼等時計ヲ見ルニ銀側以上モノキモ其機械ハ頗ル優良ナルヲ以テ知ルヘシ然レトモ尚之ト同時ニ彼等ハ高價ナルモノ堅牢ナルモノヲ使用シ價格高キモ其營養ニ富ム食料ヲ採ルヲ忘レザル點ニ注目スルヲ要ス俾庸劣價格検査表附表第一ノ如シ

今彼等ノ組織的ナル一例トシテ物品検査法ヲ左ニ記載ス

例 話

俾庸等ノ物品検査法ヲ見ルニ常ニ一品毎ニ検査ヲ行ヒ且ツ其方法頗ル便利迅速ナルモアリ即チ彼等ハ検査セントスル物品ヲ豫メ各片ニ知ラシメ之ヲ携行シテ舍外ニ列ニ敷置列スルヤ検査官ハ習業ヨリ検査ス今茲下

ヲ検査スルモノトセハ兵卒ハ袴、上部ヲ袴ヲ先ツ其後部ヲ検査官ノ兵
檢ニ度ナル如ク高ク保ツ此部ノ検査終シハ兵卒ハ之ヲ翻轉シテ前部ヲ
検査ニ供ス次ニ検査官ハ袴ノ下部ヲ合セ兩手ニテ敲キ若シ塵埃起
ラハ手入不充分ナルモノトシテ袴ヲ兵卒ノ頭上投ケツク上衣、靴、毛布等、
検査法モ皆之ニ準ス尚倅筒ハ齒磨粉、齒磨揚子、拭等ノ私
有品ニ至ル迄悉ク同様ノ検査ヲ行フ數品同時ニ行フ時ハ兵卒ノ先ツ
検査候セザル物品ハ肩ニ懸ケルカ、或ハ地上ニ置クヲ常トス倅筒下ニテ言ニ
依テ獨逸軍隊ニ於テハ毎曰此種ノ検査ヲ行ヒ一週間ニシテ全部検査ヲ
終リスト修整ヲ要スル検査ニアリテモ亦兵卒ハ各其破損品ヲ午ニシテ
一列ニ整列シ検査官ハ習熟ヨリ順次ニ之ヲ inspect ス此際兵卒ノ破損
ノ箇所ヲ指シ或ハ兩手ヲ以テ發見ニ便ナル如ク推カ袴ハ(左右履)

第三規律的觀念

而シテ皆之ニ服從スルノ習慣アリ是レ畢竟個人權利ノ衝突ヲ避ケル手段
ニシテ否ニテハ彼等ノ社會トシテ團滿ナル生存ヲ遂ケ難キカ爲メナルハシ
彼等ハ自己ノ身ヲ慮スルニ好テ規律ヲ設ケ自ラ束縛スル如ク見ユ放縱ナル
昇人特ニ東洋ノ豪傑流ヲ以テ放蕩長セラレタル時代人ヨリ見ルトキハ寧
ロ頗ル窮屈感ヲキ能ハス即チ日本官憲ヨリ彼等ニ對シ何等ノ課
程ヲ與ハズ唯起床就寢點呼食事診斷時刻ヨ定ムルニ其他ハ百午
睡スルモ運動ヲ行フモ讀書スルモ勝手ナリ然レニ彼等ハ自ラ豫定表ヲ
調製シ課目ヲ排シ時針ノ如ク致タトシテ倦マヌ

第四個人主義上權利義務ノ觀念

一般獨立獨行ヲ重シ撥シ他人ヲ援助スルヲナラズ又自ラ受ケルコト好
マサル氣風アリ親族朋友モ信賴スヘカラスハ頼ルヘキハ一三金錢アリノミ故
自己ニ利害及フ所ハ慮吉モノ一方便ト看做シ敢テ背德トナサズ者
アリ彼等ハ吾人カ一考ニテ非ト胡見ルモノモ自己ニ利益アリハ敢行ス人之

ヲ詰レハ「斯ルコトハ以前ニモ爲シタリ其時誰モ何トモ云ハサリシヲ以テ行ヒ
テモ可ナルモト思惟シタリト」遁辭ヲ以テ自己ノ非ヲ知ラザルモノハ如シ
個人ノ自由個人ノ利益ハ絶對的價値ヲ有スルモノトシ社會自ニアリテモ此
絶對的個人ヲ基點トシ個人ノ利益ヲ前提トシ如何ナル場合ニ於テモ之
云張セザルコトナシ凡テ個人ノ利益ヲ保護スル個人ノ權利ナリト思惟ス故
ニ此ヨリ彼等個人ノ利益ニシテ損スルハ、コトアレハ直ニ其事情ヲ許ヘテ之カ
賠償ヲ得ニトヲ要求シ其モ遠慮スル所ナシ之ヲ要スルニ個人主義的思
想及權利義務ノ觀念ハ元ヨリ歐米人一般ノ通有性ナルモ獨逸人之ニ
彼本來ノ自負ハ、コトカヘテ一層自甚シキモ感アリ

例 話

一徳島ヨリ日本へ青年語學ヲ研出ルヲ企圖シ生業離ヲ隔テ、仔虜ニ文
通ヲオセシ者アリ仔虜ハ之ニ對シ返信ヲナシタル爲重懲五日ニ處セラレ
タリ其際彼ノ規則中ニ「離ヲ隔テ、文通スヘカラストノ條」ナシ之ヲ論據ケ

ナリシハ、單口日本官憲トシテ遺漏ナルヘント陳述セリ(板東)

ニ點呼號音ヲ知ラズ孰ト睡スルモノアルモ隣席ノ仔虜ニシテ之ニ注意ヲ與ヘ
起床セシムルコトナク其處罰則セザルカ如キハ其モ志念ニ公スル所ニアラス其不
親切ヲ責ムレハ人ハ人タリ我ハ我タリト答フ(板東)

三、室内ニ妻を見ニ馳リテ偶ニ降雨ヲ知ニカル者アリ其モ布ヲチシアルコト知ル
友人幾人アリタルモノトシテ本人ニ降雨ヲ報スル者ナリ斯レテ本人降雨
ニ乳付キモ布ヲ取入レタルトキハ雨ノ水ノ濕潤甚ク既ニ夜間ノ雨ヲナサ
サレニ至レリ(板東)

四、郵便 檢査員ニ際偶ニ母校來リタルヲ以テ之ニ本人ノ合ヲ授與ナシ兼テ
同室ニ在ル某ノ郵便物ヲ在託セントセシニ彼ハ之ヲ應允セマシテ日々某後
刻自ラ受領ニ來ルハ、他人ノ物ヲ持來スル理由ナシト(板東)

五、進士官アリ日本語ヲ自習シテ上達シ日常ノ用ヲ辨スルニ文障ナキ至
ル同僚ヨリ買物通辯ヲ依頼スレハ余ハ他人ノ爲ニ強子ヒシニ非ストラ拒

大

絶ス(板東)

大珍菓本園ヨリ到着スルモ同一食卓者ニ其涎セシメ、燭リ之ヲ食シテ平然タリ(板東)

七、自辨ヨリ以テ點ミタル電燈ハ隣席者ニ光ヲ與フルヲ欲セシテ必ス之ヲ遮ル敵ス(板東)

八、國民軍兵卒「リヒター」及「ヤンセン」ナル者平常友誼殊ニ篤カリカ一朝利害關係ヨリ忽チ紛争ヲ惹起シ昨日ノ交情ハ今日ノ仇敵トナリ爾來現時至ル迄忍シト言語オモ交マルコトナシ(青野原)

九、各「バラック」両室中央、通路ハ両室ノ兵卒ヲ以テ掃掃スルノ様命ニシタルニ常ニ該部掃掃ヲ任テ兩室紛擾ヲ醸シ訴、出スルコト一由ニ止ラス(青野原)

十、大阪收容所火災ノ厄ニ遭ヒシトキ其身ノ危殆ヲ顧ミテ消火盡力シシ者アリ之ニ對シ所長多量賞詞ヲ與ヘタルニ彼答テ曰フ是レ只ハ予ノ義務ヲ盡シタルノミト元昂如此ハ五百有餘ノ俘虜中僅ニ三名アリシノミ中ニ予ハ第一番ニ火災ヲ發見シテ報告シタルニ拘ラヌ所長之ヲ賞與セズト不平ヲ述フル者アラリタルモ要スルニ彼等ハ一般ニ義政ヲ主張ス(似島)

十一、小屋ヲ有スル者アリテ一戰友ヲ同居セシルモ其戰友ハ決シテ無償ニテ同居スルヲ得ズ即チ同居ノ權利ヲ得タルニ對シ金品若クハ燃カワリ以テ之ヲ代償ヲ拂ハサルカラス彼等ハ斯權利ニ主張スルト共ニ之ヲ欲セテ自覺ス故ニ一品ノ金ニト雖他ヨリ世莫クヲ欲ヤス其世ニ之ニ對シ

報償スルキ義務ヲ生スルハナリ(辭周)

去乾燥中、他者、被服其他、モ、ニシテ風、高將ニ飛、トシ或ハ飛
ニテ清泥ニ汚シトスルヲ見ルモ冷然トシテ敢テ顧ル者ナシ(板東)

富國強兵與國強兵

富國強兵與國強兵、一途別ナリ、獨逸國民ハ此例外ニ居ス、即チ勤
儉貯蓄、一心ニ富ニ經濟思想、大ニ發達シ、其富將、百、長明戰、境、森、故
コニテ亦モ其卸土ヲ踏マシメ、ト、豈其富國強兵ヲ實證シ、ハモ、ニ、托、マ、ヤ
彼等曰、富、生活、状態、觀察、スルニ、類、ハ、富、利、義、ニ、シ、テ、物、品、コ、深、ク、ニ、モ
第三、富、用、ニ、適、ス、ル、否、ヲ、コ、味、シ、其、体、裁、趣、向、等、ハ、最、後、ニ、起、ル、問、題、ナ、リ、即、チ
其、物、品、力、使、用、上、耐、久、力、ヲ、有、ス、ル、ロ、又、使、用、ニ、便、ナ、ル、ヤ、コ、味、シ、百、モ、看、後、的、或
ハ、娯、樂、的、性、質、ヲ、帶、ル、ロ、彼、等、眼、ニ、二、顧、價、値、ヲ、考、證、具、ナ、リ、此、觀、念、續、
テ、ノ、方、面、ヲ、支、配、シ、舊、價、ヲ、打、破、シ、形、式、ヲ、排、シ、富、使、主、義、ヲ、採、リ、障、障、ト、ス、
又、彼、等、物、品、評、價、ニ、リ、テ、其、富、強、外、ニ、先、其、富、力、ヲ、考、量、ス、其、富、強、ニ、帶、カ、相、當

以上、利、コ、ロ、ル、如、キ、ハ、彼、等、ノ、富、強、進、德、上、決、シ、テ、許、サ、ル、所、ナ、リ、故、ニ、彼、等、ハ、物

品、穀、實、等、必、ク、希、料、何、國、工、賃、何、國、利、益、何、國、積、算、ニ、精、算、者、ニ、該、細
説明、ス、ル、歐、ス、德、等、商、工、業、ト、シ、テ、ハ、富、強、之、所、要、也、カ、對、シ、相、當、力、ヲ、支、拂、
シ、タ、ル、ヲ、以、テ、満足、シ、テ、リ、唯、特、別、知、識、ヲ、以、テ、他、ノ、積、算、者、ト、シ、テ、
「恐、ル、所、ハ、不、當、利、ヲ、得、ト、疑、ル、」ニ、テ、リ、故、ニ、其、價、格、ヲ、座、ル、ル、者、詳、細、
計算、ヲ、以、テ、之、其、疑、ヲ、存、セ、シ、ル、様、ニ、結局、富、強、ニ、信、用、ノ、維持、ヲ
以、テ、最、上、ノ、商、策、ト、ス、ナ、リ、彼、等、事、業、ヲ、計、算、ス、ル、ハ、其、大、小、ノ、係、ヲ、先
ノ、之、ニ、密、ス、ル、實、確、ヲ、精、算、シ、其、結果、ト、シ、テ、得、キ、成績、コ、見、積、リ、其、處、ニ、
棄、テ、利益、ノ、存、ス、ル、ヲ、見、ル、ン、テ、ラ、サ、レ、ハ、若、キ、セ、サ、ル、ヲ、常、ト、ス、又、高、額、ハ、出、來、得、ル
限、有、知、有、利、使、用、ス、ル、ト、即、チ、出、來、得、ル、限、リ、其、價、値、コ、大、ク、ラ、シ、テ、ト、ス、ル、ハ
五、重、ニ、對、シ、レ、彼、等、ノ、計、算、精、算、者、ト、シ、テ、食、用、ニ、精、一、羽、ヲ、購、入、ス、ル、暫、ク
之、ヲ、飼、養、シ、食、料、肥、ニ、ル、ヲ、待、テ、之、ヲ、食、用、ニ、供、ス、其、他、幼、雞、牛、豚、ヲ、飼、養、
ス、ル、於、テ、常、ニ、然、リ、又、牛、一、頭、ヲ、殺、ス、ト、七、人、其、皮、ヲ、鞣、シ、テ、靴、ヲ、履、ク、テ、コ、ラ、ト、ル

モロコシの硝は無用、其燈ヲイヌ(板東)

海軍中上雜 清暮電燈ノ點スルノ見ルヤ其馳入消燈ス(大倉)

八巻酒「サタ」ノ類、口金ヲ利用シテ靴城ヲ作り煙草ノ錫紙ヲ貯藏

テ金物箱ニ應田ニ葉巻煙草ヲ貯テ美麗ノ草筒ヲ作シ

地麥酒樽ハ此ヲ編リテ土ナリ作業ノ座トナリ書箱棚或ハ草筒ナリ

種喜莫ニ牧草ニ送ッニス(板東)

九渡島ヨリ板東ニ移轉除私物ヨリ自費ニ運搬セシムルコトヲセムルヤ

彼等ハ荷重ト荷馬車ノ積載量及備上料ヲ仔細ニ研究比較シ其荷馬

車ノ利ヲ知ルヤ馬夫ニ告ケテ白ク明朝馬ニハ食介ノ飼料ヲ其ノ馬力

ナル如クスニ又途中、馬糧ヲモ増行シ行進速度ニ變化ナキ様注意

ス(板東)

二百餘ノ片ヲ毛野蓄シテ之ヲ魚掛落解セシテ被服ノ洗濯ニ使ス(板東)

二酒保 童子ノ獨逸人ナルカ彼等ハ常ニ物價ノ騰貴又ハ下落ノ如ク熱カニ

當意シ騰貴ノ形熱カノ文字スルヤ必置買「ロ」コナニ否ニサレハ下落ノ

時期ヲ待ツ(板東)

三電燈ノ光カ燦光ニ比シ暗キトハ價格ニ相當スルモノニテ下ケ

テ賣出ス(板東)

去被服ノ修理法ヲ見ハシテ体裁ヲ變シテ腕弱ナル部分ヲ吟味シ過

大ナル様、布巾コカクハ故ニ容易ニ改換スルモノト見ス(板東)

去衣類ヲ被若クハ貴族出身ノ紳士モ勿論、其買買之際ニ半錢散ト

雖モ志緒ニ附セス又本國若クハ東洋方面ノ家族ヨリ修理セル靴下等

ヲ送附シ來ルコトアリ(福岡)

去海軍中上ノ卵ヲ買フニ曾テ自己ノ買得タル卵ノ中ニ最モ大ナリシ

卵ノ長徑短徑ヲ測リ置キ爾後卵ヲ買フニ此種大ヲ用ヒ若シ此種

大ニテ七ナルトハ不合格トシテ之ヲ買ヒ来メサルカ或ハ減價ヲ要求ス

一

(研究志野)

其業を以て其の業を以て正しんば其の業を以て綴り數世に及ぶ其他の世に用ひ候はば
其の業を以て其の業を以て正しんば其の業を以て綴り數世に及ぶ其他の世に用ひ候はば
第六研究九

停六日歩、第一歩ナリトハ彼等ノ日常之ヲコシテ自ラ啓成スル所ナリ何
事依テ又精細ニ行フニ正確ニ理解セシトシテ不可解ヲ不可解トシテ放
置スル所ナリ其理博究ノ心ハ難ヲ和議欲トナリ之ニ加フルニ彼等ノ精カ
キ業ヲ以テテ一ノ意事ハ其目的ニ向テテ進マルモノ是レ也等研究ハ
行ハレテ其研究ニ徹底的ニテ持續的ナルト本邦人ノ心然ニ熱シク
行ハレタルト又ニ其趣ヲ失ヒモナリ彼等ノ研究九、如ク衣止スル所
ナリニ其趣ヲ失ヒモナリ彼等ノ研究九、如ク衣止スル所
ニテ度研究九ニ若キスルハ如何ナリ困難ニ遭遇スルモ敢テ其意ヲセザレ
バ其業を以て其の業を以て正しんば其の業を以て綴り數世に及ぶ其他の世に用ひ候はば

意重キ心致シ波ナシテ諸君 研究ニ詳意ナク將校以下時時 譯ス
譯書ニ取ルコト常トシテ食事一定 娯樂洋書新聞時時私私 雜役時間
等ノ隙々ハ眼ノ書目藉ヲ離スルコトナシ當テ我ニ通譯カ信處海軍主
計候神主ト譯書コトナシトキ彼ノ何故ニ日本人ノ時間アルハ別々多 數相集リ
テ娯樂新聞 談スルヤ其ノ時時ノ餘レモ未レテ又以上集居ルコトナク女
自ラ之ヲテ 沈黙者トシテ或ハ好種ノ研究ニ從事スルコト常トスト相
同トシテ 彼等ノ日常ノ生活ニ時時ノ進歩スルニテ身 體検査又ハ診斷等
ニ於テ其西醫ノ言ニ依テテ時時ノ検査ニ進歩スルニテ其ノ外ニ又 讀書
アルコト常トスルニテ 教育ノ程度ノ低キ者ト雖同シク 陰ヲ惜ミテ 讀書
其研究ニ自ラ 從事スルコト從前ノ職業技術ノ間ニ其 書籍ヲ外教ニテ 語學
地理歴史或ハ國語ニ 從事スルコト自ラ一様ナク 郷國ノ父老亦 研究九次資料
コトナリテ其ノ收書期間、 必屬ヲ勤苦トシテ 從事スルコト 研究九次資料
止マレバ以テ此方 西醫ノ新聞雜誌等ニ 採テ 研究九次資料

彼等曰ク英國人の權リタクテ諸國人の權ナリ併國人の權トモナク
語ルモ直ニ飽リシ權ナリ英國人の野殊ニシテ語ル人権ナリ諸
國人の諸國ナキ人権ナリ然レトモ彼等自身モ所謂世間語ハ餘リ
好ミナシモ、如ク一般ニ化學的或ハ身明的知識ニ於テ卓越
セリテ認ル現役下士ト雖モ尚世界地理特ニ獨逸帝國ノ通商ノ實
易ニ直接關係アル諸國ノ港灣ノ物産其貿易ノ経路ヲ熟知シ
テカキ其他歐洲戰亂ニ於ケル英國ノ封鎖ニ關スル意見西諸國ノ
將來ニ就キテノ觀察、如キ類ル首肯ニキモアリ
上述ノ如ク偉大ナル常識ニ當ルヲ以テ奇タルトハ此ノ理解ニ其
為ス所モ亦タク過誤ナキコトナ

例 語

一老人村ノ最弱ニ者タリ一兵卒ニ毎日数学地理歴史理科
等ノ科授シ居レリ一日数学ノ科授後振テ空ヲ視セルニ對數表

甲ノ計算ニ於テ此ノ者多ク苦難ナク又老ナルニ其計算
ニ長ク指括シ自ニ銳筆ヲ執テ飛掃テ對數表ヲ用ヒ計算ヲ
行ヘリ老ナルニ對數表ノ引キテ記憶ニ殆ルコト
人カニテ感服セシメタリ(名士古屋)

二將校ハ日本内閣又ハ政黨ニ就テモ能ク知悉ニテリ昨午外出
時一社對ハ我計算ニ向テ政黨國民兩黨ト同志會トノ關係
又現内閣ノ辭、野黨ニ就テ説明ヲ加ヘ權ニ批評ヲ試ミタリ名
士古屋

三兵卒ナニ收書所内ノ埋立工事ヲ行ハシムルニ當リ彼等ハ除
土部ノ埋立面自然土ト同水面トナヌヲ以テ満足セズ埋立部ヲ特ニ
自然地面ヨリ高クセリ是レ一時ハ埋立面高キモ時日ノ経過ト共ニ自然
埋没マルコト知ハナリ(名士古屋)

第八卷タリ態度

獨逸人の其地方ニ依リテ多少其性質ヲ異ニテ例ハ東北地方ヨリ
 北部海岸ニ至ル地方ハ稍鈍重シテ熱心ナルモ西北部地方ハ種族
 ハ敏活ニシテ狡猾ニカ地ニ彼等ハ一般ニ敏ク適ニナル態度ヲ有シ
 動作一具脚重、他キモ必ニモ然ニス日本ハ冷雨ニ遇ヒテ走リ
 雷重ニ走リ後シトシテ走リ雷重ニ未タ停重ニナルニ降リテ又
 ハシ反ニ彼等ハコトニスシ其他遊戯中 滿然ニ血ヲ覆スカ地キ大雨
 降會スルモ倦々細ク外ニ球ヲ捨テ泰然トシテ其堂ニ飯ハ常
 トス然シトモ人ハ機微ヲ察スルコト敏捷ニ其遊戯中ニ於テハ動作
 ハ比較的機敏ナリ
 彼等恒該ニ曰ク「速ニ散行スルハ成功セルナリトサリトテ
 遊等ハ熱慮スルニテ駐ルニ事業ヲ始ムルハ地キ燦々者ニテ
 ニマ常ニ学理及宜具際方百ニ研究九ニ可算 確實ナルニ及ヒ
 テ散行ス

第二章 國家的觀念

改米諸國ハ身建國ノ歴史ヲ即トシテ其異レルコト以テ五ツノ有ルニ其
 君愛國ノ念ト其根本ニ於テ相違ニルハ嗚呼ヲ要スルモ獨逸國民
 之ニ於テ於テ比較的ニ我觀念ニ違フモノニ有ルハカヲ思ハシム然レト
 元故ニ向テ於テモ亦愛國ハ本ニシテ忠君ハ本ナリ換言スレバ愛國
 ナル故ニ忠君ナリ忠君ナル故ニ愛國ナルニ非カルナリ
 獨逸國ハ其地理的關係上露佛埃ノ三大國ニ接壤スニテ是ヲ以
 テ「自國ヲ守ルニシテ念ハ痛切ニ彼等ノ所守ニ侵敵シ自然の昔
 時ニ愛國ノ精神ニ養成セシムルモノト云フコト而カモ身練治者
 トシテ「ナリ」ハシツオレシシレテ必ク感テ利益トシ忠君ヲ愛國ニ
 シテ愛國ノ結果次ヲ忠國トシルモノナリ而シテ此ニ愛國忠君の
 精神ハ蟻心強烈ニシテ彼等愛國ノ到底企及スルコトナリ
 嘗テ証明セラシタル南部獨逸俾魯ト雖モ皆「ホー」ハシツオレシ
 一六

ニハ好々莫々有シ獲獨逸皇帝ヲ謳歌スルモノアリ然レトモ亦
皇帝ヲ以テ主權ヲ奪ヒテセリタル最高貴族トナスニ過キカルモ
ノモアリ

上述ノ如ク獨逸人ハ概シテ職別ニ於テ其國的精神ニ當リト
雖其國ヲ來ルル所ヲ成ルルハ大ニ我ト異ナレモソレヲ所謂以テ
大ニ北ニモト謂フコト得ルニ前章中獨逸人ノ特性中ニ叙セシ如ク
彼等個人主義及權利義務的觀念ハ其目的ナルモノニテラマ
教育亦及シ為教育指導宜キコト得ル結果合理的個
人主義トイリ彼等個人利益ハ或程度迄ノ國家利益ニ一
致ス國家危レハ個人亦危シ國家ノ存立ハ個人ノ犧牲ヲ要
ス(キヲ知悉ス彼等ハ意識的ニ又無意識的ニ國家組織ヲ以テ
人類ノ存立発展ノ為ニ進化法上最モ優劣ナルモノト爲シ最モ利
益アリト信ス弱者生存スルヲ餘地ハ世界ニ以テ無キトト確信シテリ

即チ國家強ク自己強ク故チ自己利益ヲ保シセシ之ヲ増大
セントセハ國家ヲシテ世界中ノ最強國トラシメサルハカラス此目的
ノ為吾人ハ忠君愛國ノ義務ヲ以テトセリ是レ彼等ノ國家ニ對スル
觀念ナリ

方今歐米ノ文物我國ニ輸入シ個人主義的觀念及權利義務主張
漸次盛ナラントスルニ當リ為教育宜シク此間ノ消息ニ注意シ國民ノ
指導ヲ怠ラサルヲ要ス(シ聞クカ如クハ獨逸ノ最大長所ハ小學校
教員ノ養成ニリト獨逸ハ小學校教員ノ養成ニ努力セラルコト茲ニ
歲アリ即チ小學校教員タルノ資格トシテ師範學校ヲ卒業シ
且實施教育ノ經驗ヲ積ミタル上第ニ回ノ試験ニ合格シタルモノアラ
サレハ採用セラレズ而モ其待遇頗ハ宜シキヲ得斯クテ其國民教育
ニ於テ熱烈ナル愛國的精神ヲ涵養シテハアリ兒童ノ就學率ハ
世界最優等ノ位置ニテリ加之義務教育ニ力ヲ用エハト固ク到リ

テ寧ロ強制的ナルモアリ、極東收奪所ニ在ルハ倭虜ノ如キハ船隻ノ
チニテ、却時帆船ニテ「カイルハルカス、ハーフエ」キル軍、航間ノ航行
ニ從事セシカ、其一港ニ投錨スルハ、巡視セハ、巡査ニ伴ハシ、附近ノ小學
校ニ通學セシメ、ヲシタリト云フ

例 詔

一倭虜ハ准士官所員ニ詔ツテ曰ク、日本國民ハ其國民精神所謂大
和魂ナルモ、ヲ大ニ誇張シ、他國人ノ企テ及サル所ナリト、自負ナルカ、如シ
然レトモ、吾人獨逸ノハ、獨逸帝國ヲ愛スルノ理由ヲ知リ、又現實ニ
勿國ヲ愛シアルト取テ、日本ニ讓ラスト信スル、テ國民ハ國民タルノ
立場ヲ知ラハ、愛國心ナクシテ「可ナラシヤ、愛國アルハ必スシテ、誇ルハキ
ニ北」ラス、蓋シ國民トテ當然、コトナレハナリ、唯、愛國心ノ厚薄ニ、或
リテハ比較シ易カラス、古来、愛國心ノ華國ヲ以テ稱セラルル日本ニ於
テモ、頃来、此精神ノ廢頓ヲ歎スル論者、今ヲ聞ク、今ヤ獨逸ハ人

民ノ敬ニ其身命、財產ヲ地、擲シテ、偏ニ自國ノ存亡ヲ為メニ、争フノ情
況ヲ觀ハ、今日、日本ノ愛國心、必スシテ、獨逸ノ愛國心ニ優レリトナスヲ得
サルハ、極東

ニ、病死倭虜後備卒「キレ、ウエツラレ」ナル者、獨逸「ブレスラウ」ハ、小
農丈ノ子ニシテ、其教育程度、小學ヲ卒業ニ過ナサルモ、其忠實言事曰ニ
於テ、同胞ニ望ミテ曰ク、テカ、遺骸ヲ埋葬、後墓、地ニ於テ、ドイツナニ
ランド、ドイツナニ「愛國歌ヲ合奏ヤト、嗚呼ハ、兵卒ニシテ死ニ
至ル迄、愛國ノ志、熾ナルト如此（大分）

三、兵卒ノ老母ヨリ、來レル書信ニ曰ク「目下、汝等、類ハ皆、政府ニ登録セ
ラレ、自由ニ屠殺スルヲ得、從テ肉、食ハ、大ニ困難ヲ感ス、然シ、其是
比、自第、一線、兵士ノ、然シ、其、長ヲ、豊カナラシムル、爲ナレハ、忍耐セサルヲ得、此
老、分ハ、僻陋ノ地ニ居、住スル、低級ナルハ、農家ノモノナリ、而シテ、此言アリ、福
修、虜中、破産、耻、漢ヲ、出セシ、時、カ、イ、セ、此ニ、對シ、恐懼ノ、至リナラ、サト、問ヒ、シ、

予ハ日本停虜ヲ何等皇帝ニ對スル顧慮ヲ要セスト答ヘタリ(板東)
云往々皇帝ヲ稱シテ「ローマン」(此語ハ下士以下ニ用ヒラレ獨逸將
ニ繁クモ之ヲ知ラス或ハ亂カ玉ト云フカ如キカ)ト呼ビ又皇帝ハ屢國
ノヲ旅行シ皇宮カ其都度停車場ニ来リ之ヲ接吻ヲナスニ對シ諷刺
的言辭ヲ弄シテ不敬ヲ意味セサル者アリ(板東)

六停虜一也佐ノ娘ヲ其父ニ送リタリ手紙ノ一紙即ニ曰ク「父上三日夕面
會シ得ル爲メ日本國ニ参リ度ハ山々ナレトモ一重ト雖モ敵國ニ日本
ニ全ク臣服スルハ好マシカラザルコトナレハ参ルコトヲ止メ申候」ト其意ハ
氣頗ル拘マヘキアリ(名古屋)

第三章 軍人精神

第一概括的觀察

忠君愛國ノ精神ニ就テハ前章ニ既ニ之ヲ述ビタリ故ニ茲ニハ之レヲ省
略シ以下其他ノ兵ヨリ彼等ノ精神ヲ觀察ハントス

抑獨逸國ハ風ニ世ノ所謂軍國主義ヲ以テ國是トシ之ニ依リ世界實
易ノ運ヲ握ラントシ陸海ノ兵備ヲ擴張シ其形体及内容ノ充實ヲ計リ
之ヲ爲メ歐洲諸列強ハ耳目ヲ聳動シ之ニ備フハ二級ヲ多クキ而シテ
今國ノ歐洲ノ大敵ニ彼ノ内容ノ精否ヲ爭フ事ハ以テ最モ名譽アルヲナリト自
認セズト雖モ一般ニ被等ノ獨逸軍人ヲ以テ最モ名譽アルヲナリト自
信シ獨逸魂ノ鍊磨ニ努カレテアル凡ルル多敷軍人ハ中元ヨク例外
アリ軍人ノ精神ノ存在ヲ怪ムヘキモノ甚カラスト雖概シテ之ヲ云ハハ形而上
形而下共ニ良好ニ訓練セラレハハ彼等ノ姿勢敬礼其他我余令規
則ニ對スル服從心等ニヨリ知ルヲ得今少シク是等ニ就テ觀察セんとス

例 談

停虜將校カ嘗テ下級所員ヨリ侮辱的行爲ヲ受テタリテ訴ヘタルコト
アリ曰ク「速軍人ハ名譽ハ終世保有不假令停虜ト雖然リ日本官長
憲ヲ亦之ヲ認ムルアリ然ルニ如此侮辱ノ言ヲ受タルハ堪フル所ニテラス云

依テ彼ニ反問スルニ獨逸ノ軍紀ハ權威ニ服従スルコトニ依テ備有サルニテ
火ヤ今許フ所ハ其所員ヲ下級者ナリ故テ以テ如クナリト雖モ傳
虜心得ニ停虜ハ所員ニ對シ絶對ニ服従ス西女ストアルニテアラスヤ服従
ノ徳ニ新クソル所アリテ獨逸ノ軍人稱神成立スルヤ斯クシテ尚名譽
ヲ要スルノ資格アリテ彼唯々トシテ日多ク「吾夫ニテ服従ヲ棄ツルノ
意若ニアラス唯眞ノ言辭担野ナリシテ以テ云ヒレノコト也」(福岡)
榮ニ服従

獨逸軍主人ノ服従心ニ富ムル世ニ是評アリト雖モ彼等ノ服従ク莫ク服従ニ
テニスレテ「三權利主義利敵カノ觀念名ヨク入致足シテ之ヲ躬行スルモノ
非サルナキカヲ疑ハシム然レトモ彼等ニ度服従ノ我利ヲ悟レハ之カ邊
行ニ勉ムルコト誠ニ感心スルキモノアリ

例話

一 叔岩當日入浴ヲ準備シテ午後七時迄ニ入浴スルヲ得ト命令セル也

午後九時頃一名ノ將校事務所前ニ来リテ歎願シテ曰ク「吾卒ハ連
日ノ旅行ニテ大ニ疲カセラルヲ以テ入浴ヲモ望ム就後ヲ希望ス願フ
入浴ヲ中止セシメテシト吾人ノ觀察ヲ以テスレハ甚クシキ獨斷
ノ歎ニシテ入浴ノ如キハ吾人ノ隨意ニテ就寢スルヲ入浴スルモ彼
等ノ勝手ナルヲ敢テ歎願ニ及ハサシカモ如ク思フ者多クカレキニ事
實否トス即チ一度命セラレタルコトハ必ズ遂行セザルカウスト爲ル其
服従的精神ニ至リテハ大ニ賞スルキモアルシ(名古屋)

二 兵卒ノ將校ニ對スル態度ハ今尚中古ニ於ケル農奴ノ地ニ對スル
遺風ヲ存シ將校ヲ以テ人主然犯スルカハ別種階級トシテ彼ノ
命スル所唯々トシテ從フ一大尉從卒ヲ呼ブキハ從卒聲尊ニ稱シテ
「ハイ……大尉殿」ヲ幾回トナシ及復シ全ク他意ナキヲ示ス(似島)

三 停虜心得中「停虜ハ皆同一權利ノモノナリ」トノ條項ヲ見ハテ彼等
上宜ニ善ムル能ク度一妻ヲ其例證トシ如シ

兵卒之對之敬禮セヨルハ勿論下士卒ニ自己ノ舊中隊長ニ對レテ亦敬禮ヲ行ハセルニ至ル(板東)

兵卒ヲ既チ組ミ輕侮ノ態度ヲ以テ將校ト爭論スルヲ見ル(板東)

ハ從卒ヲ附スルニ方リテ^證者ナク毎日比較的多額(百額立田ノ至ハ

日)ノ報酬ヲ與ヘ斬ノ劣等者ヲ得ル現況ナリ(板東)

自己ノ舊中隊長ニ抗言罵詈訕タル兵アリ大尉ハ憤慨シ平相克復ニ於テ重大ナル處分ヲ爲スヘク感歎セリ

然兵現在普通教育等ノ教授ヲ受ケツ、アルニ官ニ於テクコトナシ(板東)

四敵國內ニ俘虜トナリアル境遇上相互同情切實トナリ相頼リ相

援ケ若樂ヲ共スヘキ人情ナルニ彼等ノ間ニ此情案外少ク同ノ相

相シ上下ノ間ニ喧嘩口論ヲ敵テレ若クハ暴行ヲ加ヘ兵卒

トヲ批難シ從卒ニ親將校ト非行ヲ訴ヘ將校下士ニ兵卒ト

ヲ要求シ又將校間ニ^三四黨派ヲ異ニシ^一食卓ヲ同クセサル者

多々下リ(似島)

下士卒間ニ服從道全ク行ハス拒路收容當時下士ヲ健康保持

ノ目的ヲ以テ徒手体操指揮實施セレントセシモ之ニ對シ兵卒ハ

左ノ如ク訴ヘタリ

元來我々ハ兵營ニ在リテハ下士ニ服從スヘキ義務アルモ今日俘虜

トナリ同ヘ待遇ヲ受ケツ、アル下士ニ對シテハ何等服從スヘキ義務

ナシ依テ体操實施如キハ各人ノ隨意ニセラレタレ(青野)

六如何ニ反對ノ意見ヨ有ヌモ且規則トシテ仰セラレタル軍令

若情ナリ之ニ服從ス畢竟彼等ハ種々幼少ノ頃ヨリ規則的教

育ヲ受ケタル結果ナランカ(名古屋)

第一武勇

獨逸國民ハ古來尚武ノ氣風ニ又是カ滋養ニ努力シアリト雖本

邦人カ有スル獨特ナル武勇ト異ナルト彼等ノ忠君愛國的精神
カ想自ラ我ト異ニスレト其規ヲ一ニ即チ吾人カ有スル如キ犧牲的
精神アルニテラスレテ唯義務精神ノ一ニ其出發點ニ於テ其思想
ノ根本ニ於テ實ニ千里之差アリ我國民ハ戰場臨ミテ生還セズ戰敗
ルレハ必ハ身ヲ以テ國ニ殉スルヲ其本務トシ楠公ノ如キ討死ニ臨ミテ七
度生レテ朝敵ヲ滅ボサント誓ヒタリ然レトモ彼等ノ間ニハ此ノ如キ
崇高ナル精神アルニ非ス義務ヲ盡セリトモ敵背ヲ向クルモ恥ト
セ又又自ラ好ニテ保身タルニ至ル唯若シ其將帥ニシテ統帥宜キヲ
得ニカ彼等ハ場右ニ因リ決シテ生死ヲ顧ミルモ一ニ非ス彼等ハ
怯懦ナルニ非ザルナリ上速ノ如キ彼等ノ軍人精神ハ吾人ノ有スル大
和魂即軍人精神ト其根源ニ於テ異ナリト雖其結果ニ於テ必
ズ一ニ相背馳スルニ非ス之ヲ善用セハ侮ルハカヲアルモノアルコト確信ス
其他忠義勇智諸徳ニ就テハ記載セルヲ以テ省略ス

ヲ要求シ又將校間ニ四上意欲ヨ異ニシテ食卓ヲ同クセサル者
多クナリ(似島)

兵士卒間ニ服従ノ道全ク行ハス拒路救宍當時下チキ健康保持
ノ目的ヲ以テ徒手体操ノ指揮實施セシメントセシモ之ニ對シ兵卒ハ
左ノ如ク訴ヘタリ
元來我々ハ兵營ニ在リテハ下士ニ服従スヘキ義務アルモ今日俾膚
トナリ同ノ待遇ヲ受ケケルニ下士ニ對シテハ何等服従スヘキ義務
ナシ依テ体操實施ノ如キハ各人ノ隨意ニセラレタリ(青野智)
六 如何ニ反對ノ意見ヲ有スルモ且規則トシテ守ラレタル事ハ一モ
苦情ナリ之ニ服従スル畢竟彼等ハ極メテ幼少ノ頃ヨリ規則的教
育ヲ受ケケル結果ナラシカ(名古屋)

第三武勇力
獨逸國民ハ古來尚武ノ氣ニ富ミ又是カ滋養ニ努力シテ雖本

邦人カ有スル獨特ナル武勇ト異ナルト彼等ノ忠君愛國的精神
カ如キヲ我ト異ニスレト其規ヲ一ニ即十五人カ有スル如キ犧牲的
精神アルニテスレテ唯義務精神ノ一ニ其出發點ニ於テ其思想
ノ根本ニ於テ實ニ十里一里アリ我國民ハ戰場臨ミテ生還セズ戰敗
ルレハ必ハ身ヲ以テ國ニ殉スルヲ其義務トシ楠公ノ如キ討死ニ臨ミテ七
度生レテ 朝敵ヲ滅ボサント誓ヒタリ然レトモ彼等ノ間ニハ此ノ如キ
崇高ナル精神アルニ非ス義務ヲ盡セリトモハ敵ヲ向クニ恥
セズ又自ら好ニテ保身屠タルニ至ルニ唯若シ其將帥ニテ統帥實ニキ
得ニカ彼等ハ場合ニ因リ決シテ生死ヲ顧ミルモ一ニ非ス彼等ハ
怯懦ナルニ非サルナリ上速ニ如ク彼等ノ軍人精神ハ吾人ノ有スル大
和魂即軍人精神ト其根柢ニ於テ異ナリト雖其結果ニ於テ一
スレモ相背馳スルニ非ス之ヲ善用セハ侮ハカラザルモノアルヲ確信ス
井他徳義實業素節等ノ諸徳ニ就テハ記載セルヲ以テ省略ス

第四章 軍人ノ素節實

收居所外ニ任テハ軍事學ヲ研究ヲ禁止シテ以テ彼等ノ慎重能
力ヲ判断スルヲ得サルヲ遺憾トス然レトモ所員ノ眼ニ映レル彼等
ノ素節實其他關シカシク記載スル所アラントス

第一 將校ノ素節實

獨逸將校ハ名譽職トシテ社會ノ一流ニ位シ其出身多クハ貴族
カ然ラザルモ少クモ中流以上ニ生活ヲ営ム者ノ子弟ナリ從テ世人ノ尊敬
ヲ受ケケ又兵卒ノ將校ニ對スル觀念ハ身分上根本的區別アル者ト思
惟シ強制的服従ヲ餘儀ナキモノト断念ス吾人カ兵卒ニ對スルニ
權威ト徳望トヲ以テシテ士以下ニ誠心の服従ヲ要求ス者ト固内壞
ノ差アリト云フヘレ故ニ俘虜トナリテ以來階級ヲ認メラレス將校トシ
テ一權カヲ失フヤ將校ニ對スル兵卒ノ態度弱衰レ却テ反抗的
態度ニ出スル者アルニ至リタルヲト以テ第三章ニ述ヘタルカ如クニ俘虜

吾輩曰ク獨逸將校ハ社會上ノ地位ヲ確保セラレアル爲地方人對
シ徒ニ傲慢ニシテ却テ世事ニ疎ク非常識ナリ唯存力ナル商業
者ニテ直接間接軍隊ニ關係コ存ス者ハ偏ニ將校トノ交際ヲ以
テ信用ノ保障ト心得民間ノ宴會ニモ將校ノ列席ヲ重大視シテ
リ而リモ且現役ヲ退クヤ社會ハ此機ヲ以テ彼等ヲ擄テ之ヲ無
意傲慢ノ徒トシテ相當ル就職口ヲモ與フルコ欲セス故ニ大尉
以上ノ豫後備役者ハ軍事研究ニ身ヲ投ヌルノ外ナリ著者亦
從テ多シ尙其中少尉ニシテ現役ヲ退キタル者ハ保險會社ノ
觀誘員ナリト庶莫將校ノ常識ハ本邦將校比ニ確ニ優ルモ
ノアルカ如シ彼等ノ

多クハ各國ノ首相ノ氏名及其人物政黨種類ヲ知リ其他地理歴史
物理化學數學等ノ知識ニシテラス殊ニ經濟上ノ知識ニ富ミ物價
ヲ知リ彼是商價ノ批評ヲ下シ新聞雜誌ニテ金銀貨幣誌
ヨリテ金銀貨幣ノ爲替相場ニ注意シ息ヲ且ツ風米整
ヒ碎令ニ巧シテ能ク人ノ談話ニ和スルノ術ニ長ス然レトモ時々
非常識的願出ヲ爲スコト一再ニテ止マス今板東收容所ニ
於テ一ニ例ヲ舉クハ停虜將校中馬ノ飼養員ヲ願出ス
ルカ如キ日本料理ヲ料理店ニ至リ食レタシトモ希望スルカ如キ
見テナリ大尉以下ノ軍事能力ハ見幼稚ナルカ如シ且是レ植民
地ニテ比較的輕易ノ勤務ニ服シ放縱ナル生計ニ墮ルタルノ致
ス所ナリ一般ニ軍事ニ付キタル趣味ヲ有セザルカ如シ又現役
者ト豫備役ノ能力能度等ヲ比較セリ勿論現役者ヲ以

テ優價レリトスルモ其優越ノ程度ハ本邦ニ於テハ豫備役中少尉
ト現役者トノ差異出スルカ如シ然レトモ下ニ於テハ豫備役者
ノ人望ハ寧ろ現役者ヨリモ多ク良好ナリ且青島戰中現役將校
(主として海軍將校)ノ性懦ナリニ反シ豫備將校ノ勇敢ナリニ因ルレシ
ト雖海軍陸上其學識才能ニ於テ現役將校ヲ凌駕セル者多クアリ
レカ故尤一獨逸將校ハ下ニ於テ苦樂ヲ共ニスルノ美風ヲ却テ彼等
ニ接近スルヲ自己ノ地位ヲ傷ケルモノと思惟シ上下ノ間ニ度未モ温
情ヲ見ルルニテナレ

例 話

一外出運動ノ下ニ於テハ令離テ實施セシコトヲ屢歎願セリ(板東)
一將校ノ屋外ニ休憩所ヲ造ラントシ願出テレテムテ之ヲ許可セシ兵
卒モ亦之接テ四阿ヲ造ルルノ願出相互ニ甚感テ激論ヲ闘ヒ權

利ヲ爭ヒテ下ラス我所員裁決ニ依テ靜肅ニ飯セリ(板東)
第二、下ニ於テハ素質

獨逸軍隊ニ於テハ下ニ優ク秀ニ就テリ屢言スル所ナカ實際今日彼
等ニ接シ其感ヲ深クスルモノアリ獨逸軍隊ノ今日アル所ハ其原因多クアル
一ト雖モ下ニ優ク秀ル技術ハ其重要ナル原因一タルヲ失ハザルヘシ
下ニ於テ軍事的方面ニ幾何ノ手暇ヲ有スルヤホク觀察ノ機會ヲ得スト雖
モ彼等ノ勤務感ハ其業監督ヲ兵卒ヲ指導シ或ハ取締ルニ手暇ニ大ニ
感スヘキモノナリ將校ヲ下ニ傾ハスコトナク命セテ之ヲ其業務ヲ監督
指導スルノ能カアリ從テ將校ハ唯適切ニ命令ヲ下セリ可ナリ
本邦軍隊ニ於テハ往々兵卒中技術教練ニ於テ下ニ劣ルモノヲ見ルモ
彼等ニ於テハ下ニ劣勢能ハ度敬礼萬般ニ於テ兵卒ノ公平ヲ援クコ
ト高ク一見兩者ノ判別ヲ急スニテ下ヲ得ヘシ

下キ勤務勿論普通通譯其他除隊後之顧慮口舌系養食之爲メ
銳意勉勵ス殊ニ現任以下ニ當ニ郵便電信鉄道等ニ関ス研究九ヲ
怠ラヌ又豫備役下キ戰前東洋ニ在リテ多クハ尚書ニ從事セシ者ニ
シテ同志者ニ位相集リテ或ハ日本語支那語英語ヲ研究九或ハ尚
書ニ関ス者ヲ涉獵シテ將來發展ノ資ニ併セトスモ、他シ
テ亦獨逸下キ文官採用範圍ニ廣ク從テ在管間ニ退管後
ノ糊口問題ノ爲メニ齟齬スル者ナク一意専心軍務ニ執掌スルヲ得
斯クテ在隊九ニ年乃至十ニ年ニテ兩期トシテ技能ノ優劣ナルト否トナ
リ問ハスニ材料ヲ有ル唯ハ證明トナリ社會ニ信用ヲ得ルコト大ニシテ下
士志願者ハ常ニ決定人員ニ超過スル趨執ニテリ一下士曰クアリテ
來指物師ノ子ヲモ性質此職業ニ適セス且ツ自ラ指物師トシテセ
シツテ欲ヒサレシムルヲ匪淺ニ入リテ終生勤務ニ決心シ今ヤ既ニ十二年

ヲ經過シ然レトモ優劣者凡ソ爲容易ニ准士官ニ任サレシ此以上尙軍隊ニ止
ラント欲スニ前途見込ニ故ニ此際技能證明書ヲ得テ郵便局ニ入ルハ然ラハ
ハタモ下僚入シテト結管スルノ要ナキヲ得ヘト

又振東收管所ニ於テハ火災豫防上停業消防隊ヲ組織シ豫防ニ任セリ
其組頭トシテニシテ部下ヲ率ヒ重役所内ヲ敬重視シテ先全任務ヲ盡シ
居レリ所長本人ハ誠意ヲ認若シ火鉢使用ノ期間中全ク重テキヲ得ハ
其功績ハ大ニシテ對テ女子賞品等ヲヘト云ヒシ彼謝シ曰ク償品ハ一
時酌リ願フ終身勤勉ニ有効ナルヲ職務勉勵證書ヲ附テシタシ是レ
予ハ社會ニ於テ信用ノ有クナル證明ナレリト

第三 兵卒ノ素質

獨逸國ハ普通教育完全ナルヲ以テ無知者ナク自體強健且長大ニシテ
膂力ハ尚忍耐ノ富ニ谷昂ニ疲勞覺ハス位ニ稍遜銳ニテ判断

刀を以て者ナキ非ニモ自ニ職業ヲ開カテ智識ヲ以テ選ニ我國民ヨリ
優劣アリ彼等與ニ綿密ニ規則起シ良好ノ指導ヲ以テセリ能ク規則
ヲ遵守シ候刀を以テサルコトヲ以テ果成果常天ニ見ルキモノアリ信守廣ク下ニ
平政育程度ハ附表第三ニ付シ

第五十章 倭虜トテノ觀念

倭虜ヲ以テ對ニ名譽ト守モ概キ云ヘリ自ラ所謂名譽ナル倭虜トテ
ト思フカカレ候等ノ多額者尙且戰後ニ於テ國家ニ對スル任務ヲ完
全ニ果シタリト自覺シ其必上無辱抵抗ヲ絶續シ徒ラ生命ヲ失ハニヨリハ
寧ク戰後母國ニ歸シ得テ爲倭虜トシテ策ヲ得タルモノトセリ而シ
テ戰斗カキテ敢テ死スル外ナリ全然徒爾ニ屬シ寧ク人道ニ違フ國家ノ
損害ニテト主張スルモノ然レモ又中ニ吾人ハ最後迄戰ハントシタモ首
將降伏スルコトヲ以テスルコト得テ倭虜トナリタレリ決テ士氣ヲ保ナルニカサレリ

ト稱スル者アルモ其眞意計リ難シ唯倭虜トシテハミナラズ本國ニ於ル一
般人士モ亦彼等倭虜ヨリ少クモ青島ヨリテ激憤スルカモテ彼等
ハ意自ラ名譽ヲリト自信シ得タルモノト他レ倭虜ノ父兄カヤノ化キヨリ者
コトトセリテ喜フコト書信ヲ送ル者下レ見テ知ルヘシ而シテ彼等ハ倭虜トシテ
其名ヲ不朽ニ傳フテ戰死者戰傷者同様に名譽ト再敬トシ度クモモノ知
ク解釋トシ運命ト爲具不辛ク度クモテ居テ信スルカ也

例

一六

一 松山ニ於テ我首廣告ラ本國新聞ニ掲載シテモアリ其他本國ノ妙齡
ノ處ナト交通ヲ望ム首廣告セシトシテ歎願スル者アリ誠ニ之ヲ許可トシテ對
シ信書繪葉書多額到著シ檢閲シ其功程ノ影響者ヲ及ボセリ(板東)
二 或日一宣教師來リ談話獨僅一大家敵ニ爲包圍モシ全隊降伏シテ當
時新聞記者ニ及テ彼曰ク此際奮斗スルニ効ナシ徒ラ損害ニシテ度クモリ

ニ六

三、寧に互降伏す後日更に國境を爲す事無し、優れは此カスト(名古屋)
三、信廣トテ字品ヲ輸送、途中に道ノ人民輕蔑の意志ヨリテ、信廣
ト呼ビテ彼等後日手紙ニ次ノ如ク記セリ

日本人等吾人之遇を武勳赫々トシ戦シテ、兵道輸送、降伏シテ
モ若干ノ日本人ハ噴鼻敢テ兵卒ヲ名譽セリ、信廣カヨリ呼ビタリ
(名古屋)

四、信廣トテ、觀念上、外キヨク彼等ノ居常敢テ退縮のナラズ、我
官憲ニ對シテ遠慮ナク、勝手氣儘ナル情願ヲ申出ルニ由ラズ、例ヘリ、病
ニ降シ、東京大福園行キ、治療ニ受ケ、或リ事止、悔ミ、病ハ願カリ看護
ニ爲シ、旅行許可を得、福スルカ如シ(大介)

第六五章 宗教心

由來歐人ノ宗教心ハ極テ熾烈ニシテ、直ニ我觀念ハ之ニ依リ培養良セ、國
宗の觀念乃至吾人精神之ニシテ、滲透公セリ、信シテモ之ヲ保

廣ニ徴シテ心ニ具然ラレトテ、知ル然レトモ、獨逸カ既ニ片時時代ヨリ見
董ニ宗教ヲ注入シ、兵營ニ入リテ後モ尚三週乃至一月三回ハ寺院ニ至リテ
見放シ、歌々トテ、強クトテ、唯信トテ、廣カニ執テ之ヲ見ル、一般ノ願ハ誠意
ナキ信仰ナリト、斷言スルヲ得、獨逸ノ宗教ハ新教徒三十分乃至五分、四十分ハ
他、主テ舊教徒ナリ、而シテ其信仰度ハ新舊兩者ヨリテ異ナリ、旧
教徒ハ嚴格ナル儀礼ヲ有シ、多ク其儀式ニ依リテ信仰ヲ養ヒ、トスルカ如
ク、徒テ吾人ノ目映ル所ニ依リ、盲教徒ハ宗教勢心ニテ、其性行遠ニ温
順篤篤、安んじ、也

新教ハ獨逸カルテ、國片ハ其精神ニ養成、其身ニシテ、皇ニ帝ニ於テ、銳意
ニテ、發シ、三ノ圖シ、モ、ニテ、宗教ニ政策ヲ加味ナリ、然レモ、收容所ニ於テ
ハ、多少モ、國片ハ、主テ我カ、加味セ、宗教ハ、絕對ニ、許可シ、ラ、ル、カ、信、廣、カ、シ、タ
カ、リ、寧、ロ、シ、領、艦、ノ、カ、飲、口、不、出、席、者、常、ニ、極、メ、少、數、ニ、テ、偏、シ、京、障、ノ、地、ヨリ

宣教師來訪、豫報ニ接シ欣然シテ傳テ虜キニ非サ定メテ下テ説教其者ヲ
喜ニ非スニ此機ニ求テ小御國ノ狀況ヲ聞キ親戚ノ安否ニ思ハス又等
自己ノ田舎ノ處便ヲ樂シムニ過キス

天夕起床後就寢前於テ祈禱又禮拜ヲ爲シ夕モ夕見クハニトテク宗
教又ハ信仰等ニ款テ何等研究説話スルヲ聞ケルトナシ新教宣教師來
リテ説教スルヤ旧教徒其傍ニ遊戯ヲ爲スモ逐ニ耳ヲ傾ケル方又自ら信ス
ル教義ヲ説教シ雖一般進ニテ自動的ニ開クトス者ハ數リ現ニ宣教
師ヲ説教豫目ニ至リ事故ノ爲メ中ニ電報接セリテ行テ喜ヲ常ト
シ彼等ノカリスマニ祝シオスタニ祭ヲ祭ルノ熱心ニテ盛ニ個有ラ
備テ會飲スモ之ヲ本邦人ノ氏神ノ祭日ニ祝ヒ正月ノ祝フハ何等異
ルナレ傳虜ノ宗教別調附載第四例也

例註

一 宣教師來リテ説教中ニ英國ニ傳テ伊國ヲ嘲リ或ハ獨逸ノ世界
ニ於テ最モ優越ナル者又ハ世界ニテ神ノ外恐ル者ナシ等古人ノ言ヲ引キ
大ニ敵愾心ヲ發揮シ違フモ依テ所負ハ其不持ヲ負メタルハ彼曰ク獨逸
ノ新教ハ此ノ如キ重ク説クニ非テ説教非正ト爲收定所出入ヲ極
止セラルニモリ(名正正)

二 豫備海軍少尉「アリヤイヤ」ハ旧教徒ニテ當テ青島戰役於テ最
モ勇敢ニ戦タルノ故ヲ以テ他ノ傳虜ヨリ賞揚ヲ受ケラル者アリ彼大坂收
容所後幾何ナラス大阪居住佩國宣教師來リテ傳テ虜カヲ慰問セント
シタルト傳虜將校曰ハ其敵國ノ人ト故コトテニ面接スニトテ拒絶セ
ルアリヤイヤハ少尉ハ獨リ曰ク宗教ハ國境ナシ況ヤ彼好意ヲ以テ
我等ヲ慰メ給セテスニ於テヤ其篤志ヲ無スルヲ忍ビト乃チ他將校ハ骨
迫的言辭ヲ願ハス同ヲ赴テ面會セリ(似島)

三聖書ノ寄贈ヲ受ケル也ハ以テ煙草ノ寄贈ヲ受ケルニシケルモノトセリ收書
 當時ニ於テ彼等ハ一冊ノ聖書モ所存シテラズ且ツ所存ヲ存シテモ「クリスマス
 祭ニ際シテ作ラレ一冊ノ聖書ヲ得ニシ願出タル又聖書ヲ他ノ書目籍トシテ
 ニ寄贈ヲ受ケルヤ今配ニ際シハイリヒハイリヒニ編ニ又神ニ出サシト稱ヒテ
 之ヲ受領セラルトアリ(青野原)

四一存書ノ能キリ「宣教師又來ルカ先王近頃金ヲナニ缺クセリト月九ハタリ旅
 費ヲ得ニカ爲巡里來ル能キ者ノ説教聞クモナシト云フ又祈禱式ニ出席
 セラテ散坐セルモヲ捕フ何故ニ出席セルヤ問ヘリ「祈禱式ニ出席スルモノリ
 モ巡里ノ散步ノ自由宜キ礼ヲ吸ヒ又喫烟ニ空想ヲ描ク方違ニ安易ナリ
 ト云フ(板東)

第七 立身

日常ノ起立

傳書生活ニ就テ既ニ述ヘタル各章ニ依リ其大體ヲ曉知シ得ニト

雖「臣」ニ茲ニ其日常起居ニ付大要ヲ記載スル所アラントス抑々彼等起
 床點呼ノ食事ノ入浴診斷等ノ外何等其起居ニ制限ニ加フルトナラズ彼
 等ノ自由ニ委ニ官員ニ安返放縱其欲スル儘ナル拘メ一般規程正シク靜
 肅ナリテ收込合年付ノ下衣ヲ二日リト爲收込各當時ニ比シ自ラ拘束ス
 ト稍嚴格ヲスルニ至リト雖「猶前章ニ述ヘタル熾語種ノ研究ニ從事シ
 又十時ニ體力養成ノ急ニサレ等決シテ無意ニ先陰ヲ空費スルコトナシ

日課「え」リ各人ニテ差異アリト雖「概テ學科ノ役運ニ勤勞樂等ヲ成
 リテ各人適宜ニ日中ニ配當シ終始ニ之ヲ宜行クニ怠ラス例ハ彼等起立
 後直冷水麻ヲ擦ラ行ヒ午前中ハ主トシテ諸種ノ研究若クハ書見貴シ其胸
 室則十時頃珈琲ヲ喫ス後多ク遊戯運動音樂室内樂樂(球穴)ト
 ナリ(將基等)又ハ園藝等ヲ事トシテ三時頃珈琲ヲ喫スタ食後ハ時間
 乃至三時間構内ヲ活潑ニ歩度ニ苦調ヲ極ヘ頗ル快活ニ歩調運動ヲ行ヒ

又如何ナル感ニ氣風雪、曰、雜食後就寢前、空室外ニ出テ、若干ノ散
歩ヲ行フ要スニ彼等本邦人ノ如ク閑ヲ得ルモ茫然無意ニ其日ヲ送
ルニナリ必ス何事カヲ述メ何事カヲ為サトスル良習慣ヲ有ス
彼等ノ体操運動ヲ行フニ一回休息ノ意味ヲ含ム寒天ニ禱拜一枚薄
若シ馳歩ヲ行フア、或リテ火燈ヲカキテ、曰、「フォートボール」「フォートボール」テ
スニ行フリ器械体操ヲ行フアリ而モ此の内國民軍後備役ニ屬スル自
身ハ老若多教アリ彼等、轉倒シテキ足ヲ傷クルトナシモ直モ碎易スル
ナリ、掌ヲ以テ林ヲ兩タル鮮血ヲ搦リ遊戯ヲ繼續ス收容以來受信軍人
者、病類別中不慮外傷其等三位ニ依テ一班ヲ定メテ必要スニ彼
等ハ能ク勉メ能ク遊ビ能ク鍛練スル國民ニテ到底飽食喫衣隨眠
ヲ貪ル國民ニテ、入彼等ノ休業ニ若キスルヤ全力ヲ拏テ其片入成ニ
勉ム即チ朝ハ點時後直ニ午後ハ日没迄休業ニ止テ若キ休憩ヲ

取ルニ其他ハ絶ニテ雜誌ヲ交ヘス
一般別居ノ好ミ出承得ル限リ居所ヲ他人ヨリ遠クテ即チ各自其個人的範
圍ヲ守リテ互ニ相侵サズニシテ、切ム彼等ノ特性及習慣上言行亦直他
ニ對シテ全然無遠慮ナル為居室内ニ於テ和氣暖然ナル一團鬱ヲ見ル
下稀ニテ同一居ニテ、一言ヲ交ハルモ其意ヲ述ベタル所ナリ彼等ニ其
理由ヲ問ハハ是レハ宜ニ多教ヲ同居セシムル故ナリ各人別居スルニ決テ斯レ
結果ヲモスルニトナシテ云フ
又彼等ノ生活状態ヲ見ルニ總テ分業的ナリ即チ彼等ノ職業系其他ヨリ
既ニ其ノ行方有リ便所掃除不足度掃除ヲ擔任スル者ナリ、自新間、其
課務、運動、掃除、食糧、委員、任ズル者ナリ其他何守カハ、生活上一、一
業務ヲ分擔ヨルテ、其意、其主、派、金ヲ組織的ニテ見然、一、社會ノ
縮圖ヲ成ル

第八章 衛生思想

醫術進歩し教育普及せしむる爲に獨逸國民一般に衛生思想發
達せしむるに顯著なる彼等一般僱本に體躯に堅強なれども肉
有るに今も病三年有餘俾て衛生法を諸種に自由の束縛せし
ルに能く良好な健康状態を維持せしむる衛生思想進歩せし證
左タラスハラス院七章を述べしに於て彼等が毎朝冷水浴或ハ冷
水麻痺擦り等運動ヲ怠らざる尚食物に倍々食入閉鎖或ハ衣服
ト健康トノ關係等ヲ研究セリ然レトモ彼等が又一面に於て神經
衰弱ニ及ぶ事ヲ診斷せし受くる者下り或ハ外科的手術等ヲ
貧血ヲ起し坐倒せる者アリ其運動ニ方リ大膽活潑ニテ骨折者多キ
ニ照シテ余が内外感ニハアラス
個人衛生ヲ重ニスルニ拘ルる清潔ナル觀念ハ稍々無學者ノ傾向アリ例

ハ身体検査時身辺ノ不潔ナルモノ多キカ如キ又彼等ノ履具ニ塵
多キカ如キ或ハ其トモ其他ノ食品ヲ塵埃多キ處に放置し甚クシ
靴下トモ陳列し之を然らし者凡カ如キ往々其衛生思想上有無ク
疑ハシキ者アリ然レトモ又毎食後必ス口ヲ漱ふルカ如キ或ハ腰痛
論ニ受信當り俾て麻痺空斯性疼痛ト云ハスニ若シ腎臟障害
ニ及ビ又單ニ感冒ニ西ナリテ咳嗽時左側胸痛ニ過すニ此等ノ病
ノ起ルニ止ルモノアリ之ヲ受ルニ社會的地位ニ差異地方の風習教育程
度等ヨリ元ヨリ一學ニ論ニ去リ難キ所ニシテ藥物ノ効能ヲ述ベ自標者
果使用法ヲ説キ飲食物ノ生理的關係ヲ説ク者アルニ及ニテ或ハ核温
度トモ下轉倒ニ喉痛ニ挿入する者アルカ如シ齧齒多キハ奇異感アラ
シム而シテ輕微ノ齧齒ニ對シテモ尙大ニ治療ニ應ジ同ナルト本邦人比
ニ在ラス是レ或ハ齧齒者ノ多キ化ニ感ヲ起サシム一因ナラシク嘗テ獨逸

政府意圖ナリトテ各人齟齬收容期間ニ付全シ治療スヘク其費用救護會ヨリ支出スヘト申出テタルコトアリ

例 話

一 身体ニ異状ヲ感スルハ如何ニ輕微ナルニ症状ト雖直ニ受診スルヲ常トス
(習志野)

二 日光浴ヲ識シ又日常ノ食物モ能ク吟味シ僅少ノ悪臭カレト雖之ヲ食スル又食物ノ調理ヲテリテ穀皮塵埃等リ微細ニ注意シテ陰去ス(習志野)

三 浴室ヲ含嗽スヘカラスサル自覺言ヒテ文ヲ貼付セルヲ見ル我國ニ於テ往々風呂屋ノ一隅ニ夜尿シ浴槽内ノ湯ヲ以テ汚ラシテアルト比シハ衛生思想ノ發達ヲ否ク能ハス(極東)

第九章

雜件

第 感情ノ發露

西洋人ノ感情強シトハ一般評言リ彼等モ此例ニ洩レルトナリ喜如哀樂ヲ直ニ表情スルト本邦人ノ感情ヲ仰テ常ニ羞然自若名ニ比シ頗ル弱者ノ感アリ

例 話

或日軍醫ヨリ停傷カク齒痛ニ爲メ腫張レタル頰部ヲ切開セテシタル彼等大聲ヲ發シテ泣キ遂ニ堪ヘ得ルヤ走リテ自己ノ班ニ歸リ數回ノ招致ニ對シテ遙ニ來ラヌ

其他輕微疾ニ恠モ直ニ死ヲ叫ビ不眠ヲ唱ヘ或リ外科的治療ヲ屢ヒ治療際ニテ大聲號泣シ甚クキニ至リテハ卒倒スルモアリ(習志野)

第二 盜癖

把行取調等ニ對シ彼ニ虛偽ノ陳述ヲ爲シ容易ニ宣負ヲ吐カス

頗不不次泊ナリ彼等ハ自己ノ物品ヲ銀ヲ知シ格納ス銀トシテ

ルモ巴ウ傳サレモノ如ク考フルカ如シ
收客室初酒係ニ於テ麦酒ノ空箱ハ飛ツカケリ彼等ニ購取マラシ
其箱ノ鑰ヲ度華ト銀前トシテ堅固ナル容器ニ変化シ斯レニ二三
ヶ月後ニ各人殆ト一箇ヲ所有スルニ至レリ之ヲ我井樽ニ下レテ銀
付ノ容器ニキヒスル旨買ニ喫飲マラ値スル現象トナリサルハヨクハ彼等ハ
元ヨリ盜リコトヲ四非悪ナリト思惟スルモ亦無ニル者モ亦保管法不確實
ナリト嗤笑ヲ見ス

例 話

一 空箱ノ破損ナル者ハ自償セシムル規程ナリ故ニ自室ノ硝子ヲ破
リタル者ハ空室ノ硝子ヲ巧ニ取取スルコト往々アリ(板東)
二 作葉小屋ニハ私費ニ電燈ヲ点スル者アリ而シテ其電球及管ハ

(厚) 盜難ニ罹ル(板東)

三 新靴金銭ヲ盗マシ或リ煙草珈琲麦酒等ヲ取取キテ許へ出ル
者アリ之ヲ調査訊問四散ヲ極ト雖モ犯人ノ出テナルコト多シ
犯行嫌疑者ハ多数ノ者アリ彼等ト認定セラレ置言毆打至ラサル
ナキニ證據ヲ舉ケテテ限リ白狀スルコトナシ(板東)

四 他人ノ名ヲ以テ出函ノ治療シ受ケタル者アリ其完成後代金ヲ請
求セシモ何者ナラズ遂ニ不明ニ歸セリ又金耐離シタルヲ以テ無料治療
ヲ申出テシモ他ノ齒科醫面松山ノ手ニ成リシモノニテ見セラレ去
レリ(板東)

第十 五章 結 論

凡ノ國興亡盛衰ノ跡ヲ探ヌルニ其因テ來ル所必々民心ノ弛廢緊
張ニ非ザラズ古哲曰ク敵國外患ナキモハ國恒ニ亡ト云ヘ不易ノ金言

ト云フヘン今ヤ獨逸帝國勃興ノ跡ヲ見ニ其國勢歐洲列強ノ間ニハ
在リ國民ノ絶ヘズ列強刺激ニ受テ向上ニ發奮シテ當局者亦巧
ニ欲望ヲ指導シテ各々各々ニ因ルカセシ人動モスレバ僅國主義ヲ忌ムコト蛇蝎
ノ心ト常ニラカレモアルニ獨逸帝國カ民心ヲ緊張セシメテ國運ヲ振興シ特ニ殖
産工業ニ於テ將ニ英國ノ國ヲ凌駕シテ尙更ニ凌駕スルノ勢ヲ示ス盛
運ヲ見ルニ至リシモ偏ニ比國國主義ヲ發シテラカランヤ實ニ此ノ主
義ノ刺戟源大ナルニ加フルニ祖先傳來ノ強健ナル體軀ト組織的頭腦ヲ
以テ堅固ニ不拔惡戰苦闘終ニ獨逸天然ノ富源ヲ人爲的ニ開發シ世
界ニ今日ノ偉大ニ誇示シ得ルニ至リナリ
既ニ前章ニ記載セル如ク彼等亦相應ニ短所ヲ有ス例ニ國家的觀
念ノ弊ニ是レナリ尙今日ノ隆盛ヲ來セルハ其短所ヲ償フテ餘リ
長所ヲ有スレバナリ吾人ハ此見知ニ依リ彼等ニ應テフヘキモノ又リ吾人
コソテ反省ニ戒ミテハモノ決メテ對シトセズ近時歐米又文明ノ我

國ヲ輸入セラルルヤ各種思想雜然トシテ侵入シ或リ社會主義ト稱
シテ或リ個人主義ト稱シ或リ又文藝上ヨリ自然主義ヲ奉スルアリ
又環リテ權利ヲ主張シ反テ義務ノ何物タルカヲ解セザルアリ實古來
大和民族ヲ以テ誇トスル道義ノ念或リ地ヲ拂ハントスル懼アリ抑文
明ノ進步ハ國民ノ覺醒ヲ促シ延ヒテ各人ノ權利ヲ主張スルハ正ニ世界
ノ趨勢タリ而シテ此既ニ輸入セル危險思想或ハ軟弱思想ハ將來ノ
之ヲ根絶スルコト至ニ容易ノ業ナラス故ニ吾人ハ信ス之ヲ財過スル
ノ道ニ常ニ民心ヲ緊張セシメ國民ニシテ日本國民タルノ自覺ヲ確呼
タラシメ一方其權利ヲ認ムルコト若シ絶對ニ義務ヲ遂行シ要亦シ君國
ニ對スル服從ノ道ヲ教育スルニテ幸ヒ我國ハ萬世一系ノ皇室ヲ奉
戴シ世世ニ冠絶セル國體ヲ有シ國民ニ大指針ヲ與フト雖往々權利ヲ
主張ヲ知テ義務ヲ遂行ヲ知ラサルノ徒勢ニトセズ故ニ惡思想心ノ侵略
ヲ根絶シ義務ヲ自覺セシメンニハ國民ニ健全ナル教育ヲ施スヨリ他

他ニ策ナラン而シテ他方國民ニ間斷ナキ和氣ニ與ヘハハ皇運ニ長
久ト國勢ノ發展トヲ期スル蓋シ易々タルヘシ之カ爲國民ノ義務
教育ヲ益々督勵スルト同時ニ教師ノ人格ヲ學識ヲ向上セシメ德育
ノ爲一層カヲ倍發シ尚一面ニ於テ國民皆兵ノ主義ニ應ジテ軍事
思想ノ普及ニ意ヲ用ニル策ヲ採ラハ或ハ自國ノ國運ヲ更ニ無限ニ
發展セシメ惡思想ノ瀰漫ヲ遏止得ルニ便セランカ
附

倭虜ノ對手國ニ對スル觀念
一日本ニ對スル觀念

本邦ニ對シテ眞實ノ感情ヲ吐露スル者ナキハ其所ナルヘキモ聯
合國中憎惡ノ念最モ甚キモノ、如ク彼等曰ク日本ハ英國強
請ニ基キテ青島ヲ攻取リセシモノナリ平和克復後ハ之ヲ我ニ還行
スルナラント又曰ク獨逸ハ日本ニ對シテ好感ヲ得ンカ爲新聞雜誌ニ曰

本ノ反感ヲ買フ如キ記事ヲ掲載スルフトシ禁セシトアリト曰ク將
來世界ニ東西ニ個覇者ヲ生スヘシ一ハ日本ニシテ一獨逸ナリト尙我
國ニ對スル管見ニ摘記スルハ左ノ如ク

例 話

- 一 二下ニ曰ク日本軍ノ步兵射撃ニ常ニ不良ナリキ予曾ニ前進陣地ノ下
ニ士哨ニ服シタル後哨所ニ撤退スルニ當リ日本兵ノ前方約三百米地
點ヲ兵卒二十名ト共ニ側方ニ約二百米疾駆シタリ此時約一中
隊ノ日本兵猛烈ニ射撃セルモ名ノ損害ナカリキ又或下士
曰ク日本兵ノ射撃不良ナルヲ以テ我兵ハ決テ敵彈ニ命中セザル
モノト信ニタリト
- 二 和服ヲ奇異感シタル者少ナク寧ロ其便利ニシテ且若心地良キ事ヲ
賞ス
- 三 食物ノ運動儘ノ日本人ニ適スルモノナリトシ彼等將校モ運動ナク分

レ得ナル徳島ニ在リシ際ハ全員又日本食ヲ採リタリ然レトモ元來
脂肪分ノ極メテ少キヲ非難ス

四、住家堅牢ナラスシテ間隙多キ夏をテニ適スルモ冬をニ適スルハ
建築費ヲ要スルコト少キヲ一得トスルノミ

五、市中ノ店頭ヲ見シ商人ノ多クハ火鉢ノ一側ニ坐シ煙草ヲ燻ラシ街
頭ヲ眺ムルノリ記帳其他仕事ニ勉メタル奇異トス

六、商人ノ違約特ニ時間ヲ守ラサル敬重セズ
七、商人ノ記帳不整頓カ故錯誤多ク不安ナリ

八、商人ノ努力及能力充分ナラス酒保商人ノ如キ我等嗜好習慣
ヲ十分研究セヨカシテ物品販賣ニ支障多シ甚シキハ既ニ第

四回ノクリスマス祭ヲ迎フルモ拘ラス其果シテ何タルヲ解ス當日ノ
為特別ニ買品ノ準備ヲナサル商人アリ

九、荷車ニ馬ヲ使役セシテ牛ヲ用テ牽カレルコトヲ富初不可思議トセリ
十、山腹地ニテ收畜ヲ營ムルヲ見ス又伐木及植林ニ意ヲ付セサル所多キ驚
ケリ

十一、農家推積肥料ヲ有ス又乳牛養豚ヲ副業トセル者稀ナリ

十二、大地主トシキ者少シ此莫ニ就テハ農民ノ力平均シ却テ一般ノ幸福
ヲ下ト思考スル者多キカ也

十三、橋梁道路構築ヲ見シ悉リ薄弱ナリ

十四、工業家ノ使用スル器械ヲ見シ様式時代後シモヲ用ヒアリ鉄
工所製材所等ヲ視テ觀望ナリ

十五、靴底薄シ獨逸人ノ用ルモノハ殆ド倍高キヲ有ス

十六、器具家具類ノ製作品薄弱ナルモノ多シ椅子ノ如キモノハ
最モ脆弱シテ重ニ加エテ六用ニ能ハス

二、英國ニ對スル觀念
英獨西國人性格ノ相違及西國間經濟的競争ノ結果其

國民ノ反撥排擠非常ニシテ一兵卒ト雖英國ヲ憎惡懐忌スルコト
甚クシク事毎ミ之ヲ馬倒シテ己々ス英人ヲ呼ブニシテハレノ語
ヲ以テレ曰ク英人ハ古ノ民ニテ海員行ノ民ニテラス隋落セル生活ヲ
營ニ運動遊戯ニ耽リ自己ノ欲望ノ爲ニ其ノ天職ヲ第下スル
遇民ハ伴士ト稱スル假面ヲ制カリ唾棄スキ徒々又曰ク青島攻
圍戰中英人ノ姿ヲ見タル者ナレシ後オニ在リテフートボレルヲ
セラルアリシナラニ而シテ日本軍人隊尾ニ附シテ漸ク入城セシ頃敵ノ
至リナリト然レトモ商業上於テハ大ニ恐怖シタルモノハ独乙ニ於テ
第流ノ實業家タラニハ先ツ倫敦至リ商業上ノ研究ヲ遂
ケサル得ス故ニ漢僑ノ商業同盟ノ能キハ毎歲多數ノ秀オヲ倫
敦ニ派シ商業取引上ノ機微ヲ學テハムト云フ

三、佛國ニ對スル觀念

佛國ニ對シテハ憎惡ノ觀念比較的薄ク到底英國ニ對スルト比較

スベクモノエラス却テ佛國人ヲ以テ歐洲戰場ノ最勇者ナリト稱揚
シ我々好敵キナリト呼フ程ナリ

四、伊國ニ對スル觀念

三國同盟ヲ脱シタル北背德者ト呼ビ且ツ彼北背叛我ニ於テ些モ痛
癢ヲ感ス彼撒禮國人民果テ何カ爲サト嘲リ英國人ニ惡キヲ憎惡
アリ

五、露國ニ對スル觀念

露國ニ對シテ憎惡ノ念ハ極テ薄シ且ク露國ノ下ニ於テハ魚子文育
ノ輩ニテ訓練亦十分ナラス將校而無能徒々到底我々敵非サ
レナリ又其ノ不潔云フヘカニサルヲ笑フ

六、米國ニ對スル觀念

歐洲戰乱第三年ニ自迄米國ハ停戰ノ利益關係ヲ代表スル
唯一ノ庇護者ナリキ故ニ彼等ハ哀訴情願其他萬事ヲ米國大

使三島新其希望可達セトシ大ニ好情ヲ有シ居タリシニ一朝米獨
 國交斷絶スルヤ忽然能ハ度ニ變シテ之ヲ憎ムコト英國ニ對スルト異
 ナラス又米國ニ對テ奇異ノ言ヲ弄ス者アリ曰ク近キ將來ニ於
 テ「ヨタナシ」米國人ノ患ハ「住家」ハ當收容所ナルヘシト

附表第一 其一

獨逸俘虜体格検査表

胸圍尺	身長尺	體重斤	區介	
			將	兵
九	二〇五	九五	九	九
三、一〇	五、七六	一、五五	三、一一	三、〇七
三、	八三二	一、九五	三、〇七	三、〇一
三、〇〇	五、七〇	一、五五	三、〇七	三、〇一
三、〇〇	三、三七	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇〇	五、六一	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇〇	四、三〇	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇一	五、六四	一、五九	三、〇三	三、〇三

其ノ二

奧國俘虜体格検査表

胸圍尺	身長尺	體重斤	區介	
			將	兵
九	二〇五	九五	九	九
三、一〇	五、七六	一、五五	三、一一	三、〇七
三、	八三二	一、九五	三、〇七	三、〇一
三、〇〇	五、七〇	一、五五	三、〇七	三、〇一
三、〇〇	三、三七	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇〇	五、六一	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇〇	四、三〇	一、三三	三、〇一	三、〇一
三、〇一	五、六四	一、五九	三、〇三	三、〇三

本邦陸軍諸兵種体格検査表

区分	第一期		第二期		第三期		平均
	人員	一人平均	人員	一人平均	人員	一人平均	
體重(貫)	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三
身長(尺)	五、三三	五、三三	五、三三	五、三三	五、三三	五、三三	五、三三
胸围(尺)	二、八一	二、八一	二、八一	二、八一	二、八一	二、八一	二、八一

ノ本表、陸軍省大正五年統計年報(三版)ノ
又検査期、第一期、第二期、第三期、夫々其翌年ノ一月三日ニ概テ年ヲ
間入

附表第三

學堂下主卒業教育程度一覽表

程度	人員	權	要
大學校及之下同程度ノ 學校卒業者	七〇	Wissenschaftliche Hochschule	
高等學校及之下同程度ノ 學校卒業者	四三二	Hochschule (高等學校) 等ノ卒業生	
中等學校及之下同程度ノ 學校卒業者	四	Gymnasium, Polytechnicum, Gewerbeschule	
高等小學校及之下同程度ノ 學校卒業者	五六六	Realschule, Fachschule	
高等小學校及之下同程度ノ 學校卒業者	五二五	Berufsschule, Fortbildungsschule	
高等小學校及之下同程度ノ 學校卒業者	四六	同上	
高等小學校及之下同程度ノ 學校卒業者	三五三	Volksschule, Elementarschule	
高等小學校及之下同程度ノ 學校卒業者	一八三	同上	

三九

考	備
獨逸國ノ教育制度リ本邦ト異ナルヲ以テ此ノカ程ノ度ニ比較ス ルコト困難ニモ摘要ニ記載ノ標準ニ依レリ 又印ハ他國ノ俾庸ラ示ス 又俾庸中ニ無學子者ナシ	合 計 四一五 △二九三

大學生校及之同程度ノ 學子卒業業者 高等學校及之同程度ノ 學子卒業業者 中學校及之同程度ノ 學子卒業業者 高等小學校及之同程度ノ 學子卒業業者 尋常小學校卒業業者	七 △一 四三二 △四 五六六 △五九 五三五 △四六 三五三 △一八三	人員 摘 要	度 人員 摘 要
---	---	--------------	-------------------

附表第三

俾庸下主平教育程度一覽表

大學生校及之同程度ノ 學子卒業業者 高等學校及之同程度ノ 學子卒業業者 中學校及之同程度ノ 學子卒業業者 高等小學校及之同程度ノ 學子卒業業者 尋常小學校卒業業者	七 △一 四三二 △四 五六六 △五九 五三五 △四六 三五三 △一八三	人員 摘 要	度 人員 摘 要
---	---	--------------	-------------------

三二

考	備	合
獨逸國ノ教育制度ハ本邦ト異ルヲ以テ學子ノ程度ヲ比較スルニ困難ナキヲ摘要ニ記載ノ標準ニ依リ	又△印ハ獨逸國ノ學子ノ示ス	計
ニ位ノ學子中ニ無學士者ナレ		四一五 △二九三

獨逸國ノ教育制度ハ本邦ト異ルヲ以テ學子ノ程度ヲ比較スルニ困難ナキヲ摘要ニ記載ノ標準ニ依リ	又△印ハ獨逸國ノ學子ノ示ス	ニ位ノ學子中ニ無學士者ナレ
--	---------------	---------------

附表第二

獨逸學子外國語修業者調

其一二

修業者數	獨逸	外國	合計
計	四一三	三三三	七四六
英	一六三	一三三	二九六
佛	一三三	一三三	二六六
露	一三三	一三三	二六六
支那	一三三	一三三	二六六
西土	一三三	一三三	二六六
下	一三三	一三三	二六六
卒	一三三	一三三	二六六
計	一三三	一三三	二六六

四〇

日 記

日期	時間	地點	事項	備註
10/1	上午
10/2	下午
10/3	上午
10/4	下午
10/5	上午
10/6	下午
10/7	上午
10/8	下午
10/9	上午
10/10	下午

